

はじめてのTopicality

2003年8月10日
NAFA セミナー

目次

1 . Topicality って何？	pg2
2 . Topicality はどういう風に使われてる？	pg3
3 . Resolution と plan の関係	pg4
4 . Resolution をフレーズ分けする	pg5
5 . 1NC を見てみよう	pg8
6 . Topicality の3つの要素	pg11
7 . 2AC はどうする？	pg13
8 . Topicality を伸ばしてみる	pg15
9 . Definition 集を作ろう	pg18
10 . フレーズごとの Meet Argument を考えておこう	pg19
11 . 参考文献	pg20

1. Topicality って何？

Topicality っていう言葉を聞いたことあるでしょうか？あまり一般的な言葉ではありませんが、debater なら誰でも知っている言葉です。Topicality は“topic”と関係のある言葉で、ある plan が topic に合うものなのか、topic 外のものなのかを話題にした議論です。

初心者の方は AD (Case とも言う)、DA、Counterplan、Topicality という 4 つの枠組みを押さえておいて下さい。debater はこれらを issue と呼びます。issue は直訳すると「論点」とか「議題」とかになります。とりあえずよく出てくる issue として AD、DA、Counterplan、Topicality を覚えて下さい。

今回は、この重要な issue の一つである Topicality について取り上げます。

どこかで習ったと思いますが、debate の試合は Affirmative が plan と AD (Advantage) を出すことで始まります。そして Negative はその plan に対する DA (Disadvantage) を出し、AD に反論してゲームが進んでいきます。ただしその際に、Affirmative は好き勝手な plan を出して良い訳ではありません。ある一定の枠内からしか plan を出せません。そのくらいのルールを決めておかないと、Affirmative は「教科書検定を廃止する plan」を出してくるかもしれないし、「陪審制導入の plan」を出してくるかもしれないし、「減税する plan」「原子力発電所を廃止する plan」「憲法改正 plan」「北朝鮮に経済制裁する plan」などなど何通りの plan でも出すことができしまい、Negative は Affirmative が何をしてくるのか事前に全く想像できず、準備もできません。Negative は何も反論もできず、常に Affirmative が勝ってしまうようでは debate がゲームとして成り立たなくなってしまいます。そこで Resolution (論題) という枠組みが設定されていて、Affirmative はこの Resolution という枠組みの中から plan を出すことになっています。

Affirmative とは、そもそも「肯定側」という意味ですが、何を肯定する側なのかわかりますか？実は、Affirmative が肯定しなければならないものがこの Resolution なんです。**「肯定側」っていうのは「Resolution を肯定する側」で、「否定側」っていうのが「Resolution を否定する側」**です。debate は「Resolution が肯定された時に Affirmative の勝ち」になるゲームなので、Affirmative が Resolution ではないものを肯定しても勝ちにはなりません。「Affirmative が出してる plan は Resolution の枠の中に入っていない」ことを Negative が示せば、「Affirmative は少なくとも Resolution の肯定はしていない」ことになり、Negative は勝つことができます。この話を debate 中に行うのが Topicality です。Topicality は Affirmative を一刀両断で瞬殺してしまう武器になり得るんですが、斬り損ねたら何の働きもしないことが多い、少し特殊な議論です。

1. Affirmative Resolution を肯定する役割
Negative Resolution を否定する役割
(ただし、Resolution が肯定も否定もされなければ Negative の勝ち)
2. Affirmative は Resolution 以外のものを肯定しても勝てない
3. Affirmative の plan は Resolution を肯定するのか、Resolution 以外のものを肯定するのかを議論するのが Topicality

2. Topicality はどういう風に使われてる？

それでは、Topicality はどういう時に使われているのでしょうか？ Affirmative も Negative も双方とも「Topical な plan (Resolution に適合する plan) は大体こんな感じの plan」という大雑把なイメージを持って debate をしているはずですが、ところが、Affirmative が Topical だという前提で出した plan が Negative から見たら全く Topical でないと感じるような状況は十分に起こり得ます。

「日本政府は減税を行うべきだ」という Resolution で考えます。Negative は消費税や所得税、法人税などの減額を想定していたとします。ところが突然 Affirmative が「日本政府は国民に地域振興券(商品券)を配布する」という plan を出してきたらどうでしょう？(ちなみに、地域振興券配布というのは小渕内閣の時に減税の一環として実際に行われた政策です。地域振興券という名前の商品券を国民に配ってそれを使ってもらうことで景気を良くしようとしました。結果を見ると、景気には何の刺激にもならなかったんですが。)

このような時に Topicality が有効活用できます。「税金の額を減らすのが減税なのに、税制自体は何も変えていない。だから Non Topical だ (Resolution に適合しない)。」と思えば、そのことを立証する Topicality を出すことで相手を Non Topical にすることができます。相手の plan が Non Topical になれば、どんなに大きな AD が出ていようと決して Resolution は肯定されません。(Resolution に全く関係無いところでどんなに良いことがあったとしても、Resolution は肯定されません。当たり前ですが。)だから Negative の勝ちになります。

でもこんな plan を出す時、Affirmative は Affirmative で「たぶん Topicality が出てくるだろうな」と予想しているはずですが、だって、いわゆる普通の plan ではない、誰でも Topicality を出したいくなるような plan だから。このように、Topicality が出てくることを想定して作った plan (見るからに Non Topical な plan) に対して出される Topicality がある一方、Affirmative が「自分の plan は絶対 Topical だ」と思っているのに Negative に Topicality を出されることもあります。Topicality は一撃必殺の議論であり、Negative の戦略に上手く組み込めば効果的に Affirmative にプレッシャーをかけることができます。debate では、相手の主張に反論しないと(反論するべきところを反論し損ねてしまうことを「drop する」と言います)相手の主張を認めたことになってしまうことが多いです。だから Affirmative がどんなに自分の plan は Topical だって信じていても、相手に Topicality を出されてそれにうまく反論できないでいると、一見 Topical な plan でもそのゲームの中では Non Topical になってしまい、Negative の勝ちになってしまいます。Affirmative が「自分の plan は絶対 Topical だ」と信じていたとしても上手く表現できなければ全く意味がありません。

自分が Affirmative ならどんな plan を出す時でも Topicality には気をつけている必要があります。Negative は Affirmative が「変な」plan なら Topicality を出すべきだし、Affirmative が「普通の」plan でも Topicality を戦略に組み込んで使えないかな、と考える価値があります。

1. どんな plan に対しても Topicality を出される可能性がある

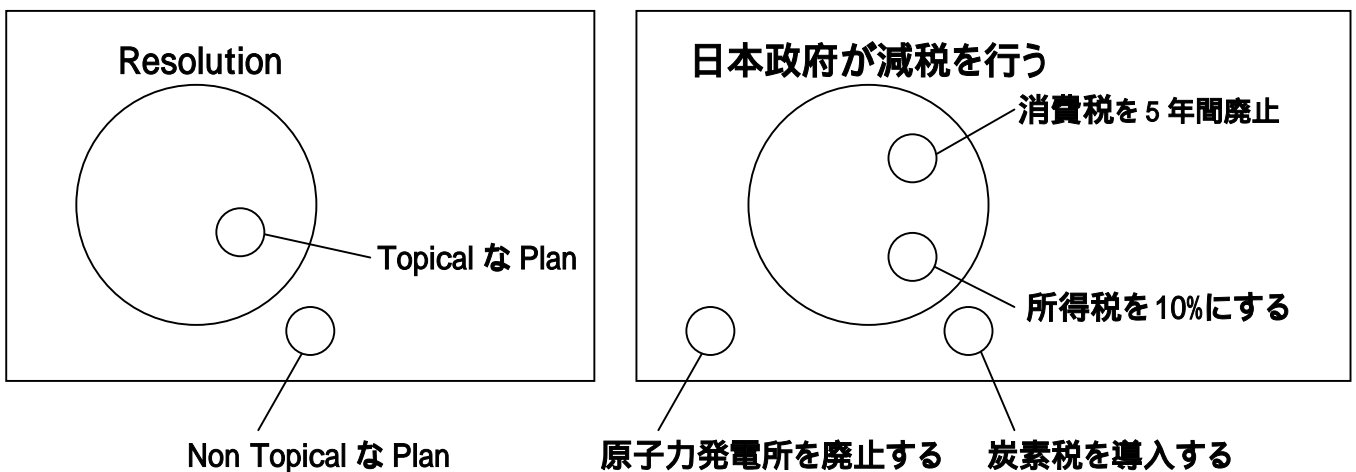
2. Affirmative は自分の plan が Topical であることを上手く表現できないとどんな plan であっても負ける可能性がある

3. Resolution と plan の関係

Affirmative(肯定側)は「Resolution を肯定する側」、Negative(否定側)は「Resolution を否定する側」です。debate では Resolution が肯定されるか、されないかで勝敗が決まります。でも、Affirmative は 1AC で Resolution を提示して AD を出すわけではありません。Affirmative は 1AC では Resolution の代わりに plan を提示します。それではこの Resolution と plan にはどのような関係があるのでしょうか？

普通 Resolution は大きな枠組みを指し示すだけで、具体的に何をすべきなのかまでは言っていない。そこで Affirmative は Resolution という大きな枠組みを肯定するために具体的にどのような plan をとればいいのかを提示します。

例えば、「日本政府は減税を行うべきだ」という Resolution であったとします。ここで肯定側が「日本政府は減税を行うべきだ」という Resolution そのままの plan を 1AC で出したとします。ここで「減税」という言葉を考えてみてください。一口に税金と言っても、所得税や消費税、法人税や相続税など色々な種類の税金があり、減らす割合だって、1%減らすのか、半分にするのか、ゼロにするのか、この言葉だけでは具体的にどういふことをするのか全くわかりません。こんな曖昧なよくわからない plan では Affirmative は Resolution をうまく肯定できません。そこで、Affirmative は Resolution を具体化するような plan を出して、それがいかに良いことなのかを 1AC で語ります。例えば、「消費税を 5 年間廃止する」とか「所得税を全員一律 10%にする」とか具体的な plan を提示します。その具体的な plan を踏まえて、「消費税が無くなるからこの 5 年間消費が増えて景気が回復する」とか具体的な AD が示せるようになります。plan は Resolution を具体化する一つの方法に過ぎず、一つの Resolution の中から様々な plan を出すことができます。



1. plan は Resolution の一部分に過ぎない

2. 具体的な plan によって Resolution という枠組みを肯定しようとしている

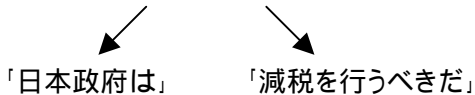
4. Resolution をフレーズ分けする

それでは、「Resolution を肯定する」ためにはどういう plan を出せばいいのかを次に見ていきます。当然のことなのですが、Resolution を肯定するためには、まず Resolution の意味をしっかりと把握しなければなりません。そこで Resolution の把握の仕方を考えてみます。

それでは、先ほどの「日本政府は減税を行うべきだ」という Resolution を考えます。把握も何も、誰でも意味がわかりそうなものだと思うかもしれませんが、多くの人が、「政府が税金を減らすこと」を漠然と想像すると思います。それでは、どうやってそう想像したのか、そのプロセスを抽出してみます。

まず、一つの文を意味の区切りごとに分けているはずで

「日本政府は減税を行うべきだ」



(この文節(フレーズ)ごとに分ける作業を「フレーズ分け」と呼ばせてもらいます。)

そしてそれぞれのフレーズごとの意味を頭の中で定義していると思います。



この結果、「内閣、行政機構が税金を減らす」ことであると把握しています。

Resolution を正確に把握して初めて Affirmative は Topical な plan (Resolution に合う plan) を提示することができます。Resolution をフレーズ単位に分けて、それぞれ定義したフレーズに適合するように plan を作り、Resolution 全体に合う plan を提示します。例えば「日本政府は減税を行うべきだ」という Resolution を肯定するために、「日本政府(内閣、行政機構)は消費税を廃止すべきだ」とか「日本政府(内閣、行政機構)は法人税を10%減らすべきだ」とか、フレーズ分けして解釈したものに適合する具体的な plan を提示します。

シンプルな例として「日本政府は減税を行うべきだ」という Resolution を取り上げてみました。それでは、次の場合はどうなるでしょうか？

同じように 1. フレーズ分け 2. フレーズの意味の定義 を行って見て下さい。

「日本政府は、エネルギー供給のための原子力施設をすべて廃止すべきである。」

「日本国政府は、教科書検定制度を廃止すべきである。」

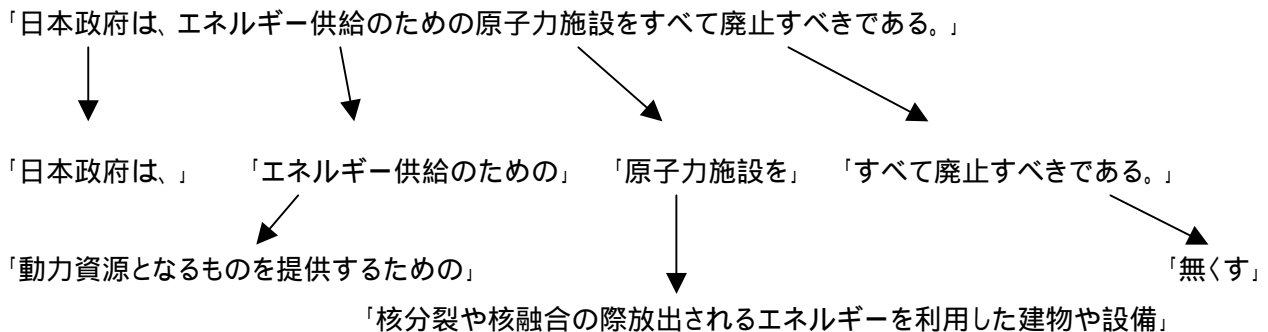
「日本国政府は、人クローン胚の作成および人体への応用に関する規制を大幅に緩和すべきである。」

「日本国政府は、日本国籍の取得条件を大幅に緩和すべきである。」

「日本国は、一般市民が裁判内容の決定に実質的に関与できるように裁判制度を変えるべきである。」

(これらの Resolution は過去に実際に使用されたものです。)

試しに「日本政府は、エネルギー供給のための原子力施設をすべて廃止すべきである。」という論題をフレーズに分けて意味を定義してみます。



そもそもフレーズ分けや定義は何通りにもできるはずですが、上のは一例に過ぎません。ただ、ある程度まとまった意味ごとに分けて下さい。必要以上には分けなくて下さい。例えば、

「原子力施設」 → 「原子」「力」「施設」

と分けても、意味がありません。意味がないどころか、「原子力」を「原子」と「力」に分けて一つずつ定義すると、むしろ本来の意味とは異なる意味ができあがってしまいます。もし以下のようにそれぞれ辞書から定義を持って来たらどうなるでしょう？

「原子」 → これ以上分けられない微小存在

「力」 → 権力

(もちろんこれらはわざと相応しくない定義を選んでいきます。)

これ以上分けられない微小存在の権力?? 全く意味がわかりませんね。「原子力」を「原子」と「力」に分けても正確な意味は得られません。「原子力」は「原子力」のまま定義すべきだし、もっと大きく、「原子力施設」としての意味をとらえるべきです。

このように全てを単語のレベルまで分解してしまうと、文法、文脈、熟語、連語などを考えるのが難しくなり、むしろ本来の意味から遠ざかってしまうことがあります。かといって Resolution そのままでは、文章として長すぎて上手く定義できません。そこである程度の長さを持つ意味のまとまり、つまりフレーズごとに定義します。単語レベルの定義は、フレーズ全体を理解するための助けとして使います。

ところで、「これ以上分けられない微小存在の権力??」などという意味不明な解釈が出てきましたが、これは日本語だからこそ誰でも意味不明だっていうことがわかるだけで、英語だとその限りではありません。というのは、実際に英語で行われている debate では、Topicality として、このような日本語にしたら明らかに意味不明である解釈が出てきているからです。英語で debate をする場合は母国語でないからこそ「解釈」がますます重要になってきます。気をつけて下さい。ただ、解釈の方法は日本語の場合と同じです。英語の場合でも単語一語

に注目するのではなく、フレーズごとに注目して下さい。そうすることで、このような意味不明な解釈をすることもなくなるし、変な解釈に対してその解釈はおかしいって明言できるようになります。それでは次に英語の Resolution をフレーズ分けしてみして下さい。

Resolved: That the Japanese government should abandon all nuclear facilities used for the national energy supply.

Resolved: That the Japanese government should relax its restrictions on the creation and use of human embryo clones for medical purposes.

Resolved: That the Japanese government should significantly mitigate the requirements for acquiring Japanese nationality.

Resolved: That Japan should adopt a system of trials that substantially involves laypeople in making court decisions.

(これらの Resolution は過去に実際に使用されたものです。)

英語でも全く同じです。細かくなりすぎないようにフレーズ分けして下さい。

どの Resolution の場合でも、フレーズ分けした後、それらのフレーズの定義を行います。そして、フレーズの定義を満たすような plan を作れば良いということになります。

1 . Resolution はフレーズ分けして理解する

2 . フレーズはあまり細かく分けすぎない

ちなみに今期の Resolution は以下の通りです。

「日本政府は、炭素税を導入すべきである。」

Resolved: That the Japanese government should impose taxes on carbon dioxide emissions.

これらもフレーズ分けしてみよう。

5. 1NC を見てみよう

では次に Topicality の実例を見てみます。ここから英語が混じってきますが、表記が英語になっても本質的なところは何も変わりません。

Resolution が以下のようなものであったとします。

Resolved: That the Japanese government should reduce taxes. (日本政府は減税を行うべきだ。)

そこで、先ほど出した例を再び使いたいと思います。「減税の一環として地域振興券(商品券)を配布する plan」
Plan The Japanese government shall distribute merchandise coupons to nation.(地域振興券を配布する。)
に対して、それが Non Topical であることを主張する Topicality の例を作ってみます。

Topicality “reduce taxes”

- a) Topicality is an absolute voting issue.
- b) Interpretation and violation. To “reduce taxes” means “to lower the charge against persons”
 1. Definition of “reduce” comes from Oxford English Dictionary ‘89 / 2nd edition 1989
To lower, diminish, lessen
 2. Definition of “tax” comes from WordNet ‘97 / R 1.6, c 1997 Princeton University
<http://dictionary.reference.com/search?q=tax>
charge against a citizen's person or property or activity for the support of government
 3. Therefore, topical plan is to “lower the charge against persons.” However, Affirmative does not change the charge itself, but government just distributes coupons to nation. Therefore, their plan is non topical.
- c) Standard
 1. Grammar and context should be respected since they are the essence of a sentence.
 2. Resolution should be taken as it is. To “reduce taxes” never means to “distribute coupons” directly. Thus, their plan is non topical.

何を言っているかわかるでしょうか？減税というのは、「政府を助けるために個人が支払うべき料金を減らすこと」なのに、「肯定側の plan は国民に商品券をばらまいているだけ」であって、「個人が政府のために支払うべき料金は変わっていない。」だから non topical である、という話ですが、いきなりそんなこと書かれてもピンとこないかもしれません。一度腰を据えてじっくり考えてみて下さい。表現がややこしいだけで、決して難しいことを言

っているわけではないので。(ここではわかり易いようにと思い、charge を料金と訳しています。)

a)、b)、c)に分かれている理由はこの後で説明します。とりあえず今は内容と雰囲気を感じ取って下さい。

それでは次は、「見るからに Non Topical であるという訳ではない plan」に対して出している Topicality の例を見てください。こちらは、あからさまに Non Topical なわけではないので少し難しいです。原子力施設廃止の例を使ってみます。

Resolved: That the Japanese government should abandon all nuclear facilities used for the national energy supply.

「日本政府は、エネルギー供給のための原子力施設をすべて廃止すべきである。」

この Resolution の下、「全ての原子力発電所を解体する」plan が出てきたと仮定します。

Plan 1. The Japanese government shall abandon all nuclear power plants. (“nuclear power plant” = 「原発」)
2. All nuclear power plants shall be dismantled. (“dismantle” = 「解体する」)

Topicality “abandon nuclear facilities”

a) Impact

1. Topicality is an absolute voting issue.
2. Extra topical advantage must be cut because it does not affirm the resolution.

b) Interpretation and violation

1. To “abandon nuclear facilities” means “To give up nuclear facilities by leaving.” Definition of “abandon” comes from The American Heritage Dictionary of the English Language 2000 / 2000 Fourth Edition / Published by Houghton Mifflin Company.
To give up by leaving or ceasing to operate or inhabit, especially as a result of danger or other impending threat: abandoned the ship.
2. Affirmative, however, dismantles nuclear facilities. It means that, after plan adoption, they never leave them and continue the operation of nuclear facilities to dismantle them. Hence, their plan is non topical.

c) Standard

1. Grammar and context should be respected since they are the essence of a sentence.
2. Each word of the resolution must have a unique meaning because each word has special reasons to be used in the resolution. As Affirmative argues in case, as result of danger, Affirmative “abandons” nuclear facilities. The dictionary says that to “abandon” means to “stop operating” especially as a result of danger. Thus, their plan is non topical. You should respect this specific meaning of the word “abandon.”

どうでしょう、わかりますか？ポイントは dismantle(解体する)です。Negative は Topicality の中で、辞書による言葉の定義や使い方から、「危険が迫ったときに“abandon”する」場合は、「全てかなぐり捨てて逃げ出す」という意味であって、解体のためとはいえ、「原子力発電所に残って作業しないといけないような plan」は“abandon”していることにならない。だから Non Topical である (Resolution に適合しない) っています。確かに、「何もかも捨てて逃げ出す」のと「残って作業する」のは明らかに違います。ここを利用した Topicality みたいですね。

それでは、これらの例を眺めた上で Topicality の構造を解説していきます。

初心者の方はここは読み飛ばして下さい

大抵の場合、原子力施設を廃止する Case の Impact は「何かの拍子に原子炉が大爆発して甚大な被害が出ることを防ぐ」ことです。原子炉の大爆発を防ぐためには operation をやめただけでは不十分です。安全な形で dismantle して、はじめて原子炉自体が無くなります。上の Topicality が立てば dismantle に関する部分は Non Topical になります。でも dismantle しない限り AD は出ません。このように PMA と同時に伸ばすことで Topicality が有効な議論になります。

6. Topicality の 3 つの要素

例として出した Topicality は a)、b)、c) という 3 つの部分からできていました。最近見かける Topicality の多くがこの 3 つの部分からできています。それではこの 3 つ Impact、 Interpretation and violation、 Standard を一つずつ見てみます。

Impact

Topicality の Impact は a) に書いてある通りです。absolute voting issue です (voting issue (= voter) っていうのは、Judge がそのゲームの勝ち負けを決めるのに使う issue のことです)。Topicality が成立すると Affirmative は Resolution の内側を肯定していないことになるので Negative の勝ちになります。ここはほとんどの人が納得する部分なので、実際の debate の試合でもこのように軽く触れられる程度で終わります。

Interpretation and violation

ここで、Resolution の「解釈」と Affirmative の plan が「どのように Resolution を肯定していないのか」を説明しています。まず、Topicality の中での基本的な単語である Interpretation、Dictionary definition、Violation という 3 つの言葉を覚えて下さい。

Interpretation (= Definition) 「解釈」

先ほど、Resolution をいくつかのフレーズに分けていき、それぞれのフレーズごとの意味をはっきりさせ、その上でそれに対応する plan を作る、と言っていました。ここでやっている「フレーズ分けして意味をはっきりさせる」の**が Interpretation (解釈) にあたります。これは Definition とも言います。**ここで一つ注意してもらいたいことがあります。Definition は define (意味を明確にする、定義する) の名詞であり、「意味を明確にしたもの」です。Topicality において Definition は「意味を明確にしたもの」である Interpretation を指す時と、「辞書の定義」である Dictionary definition を指す時があります。実際の試合の中では Definition = Dictionary definition を指すことが多いようですが、必ずしもそれが全てではありません。どちらの意味で Definition と言っているのが注意が必要です。

Dictionary definition 「辞書による定義」

辞書に書いてある言葉の定義のことを Dictionary definition と言います。(Dictionary を省いて Definition とだけ言うことも多いです。)これは Interpretation (= Definition) を主張するためのエビデンスにあたるものです。

「Interpretation (解釈) を行うために Dictionary definition (辞書による定義) をエビデンスとして使う」ということを覚えておいて下さい。

Violation 「違反」

Violation の項目で「Affirmative の出した plan は Resolution の解釈に必要な基準から考えると Topical であるとは言えない。」という話をします。ここで Interpretation、Standard の議論を利用して Affirmative の plan がどのように Non Topical であるかを説明します。

今あげた3つの要素 (Interpretation、Dictionary definition、Violation) を使って Affirmative の plan が Non Topical であることを示すのがこの項目です。つまり、Interpretation and violation の部分では Dictionary definition を使ってある特定のフレーズの Interpretation(=Definition)を示します。そして Affirmative の plan は解釈に必要な基準(下で説明する Standard のことです)から考えると Topical であるとは言えないということを説明して下さい。

Standard

ここで言う“Standard”は「基準」という意味です。では、何の基準でしょう？これは「Resolution を解釈する時に基準となるもの」です。今回は grammar and context should be respected.などと言っています。これは Resolution を解釈するには、文法事項や文脈に沿って解釈すべきだと主張しています。

「Resolutionをどういう基準で解釈するか」が違えば、基準の違いによって、たとえ同じResolutionであっても「解釈された Resolution の意味」が当然変わってきます。だから、この基準(Standard)をうまく設定することによって Negative は Affirmative の plan を Non Topical にすることができます。Negative は Affirmative の反論を予想して、それが排除できるような Standard を準備してきます。先程の Topicality の例ではどのような「基準」を出して、どう利用しているのか考えてみて下さい。

Topicality の基本的な話は以下ようになります。

「Resolution のこのフレーズはこういう意味だ」(Interpretation、Dictionary definition)

「それは Resolution をこういう基準で解釈するのが妥当だからだ」(Standard)

「そうすると肯定側が言ってる plan は Resolution から外れてることになる」(Violation、Standard)

「Resolution から外れた plan じゃ Resolution は肯定できないから否定側の勝ち」(Impact)

こんな感じです。なんとなくでも感覚がわかってもらえたでしょうか？この基本構造と見比べながら、先ほど例としてあげた Topicality をもう一度見直して下さい。

ちなみに今回は Impact、 Interpretation and violation、 Standard の3つに分けてみましたが、必ずしもこのフォーマットに従っている必要はありません。 、 、 の順番を入れ替えてもいいし、InterpretationとViolationを別々にしてもいいし、その他の項目を付け加えても構いません。その Topicality の中で「Affirmative の plan は Resolution 外のものなんだ」っていうことさえ示していれば形式に制限はありません。

1 . Topicality は Impact、 Interpretation and violation、 Standard からできている

2 . Interpretation (Definition) あるフレーズの意味、解釈

Dictionary definition ある単語の辞書による定義

Violation plan が、 Topical になるのに必要な基準に反していること

Standard Resolution、フレーズを解釈するための基準

7. 2ACはどうする？

それでは、Affirmativeとしては Topicality にどう対処したら良いのでしょうか？自分でも「この plan って Non Topical だよな」って思ってしまうような plan を出してる場合はもちろん Topicality の対策をしなければならないし、そうでなくても Negative のストラテジー(戦略)の一環として Topicality が出されることがあり得るので、Affirmative は常に Topicality を意識している必要があります。

Topicality は一撃必殺で Affirmative の息の根を止めることができる議論です。どんなに Affirmative が自分の plan は Topical だって信じていたとしても、「受け方」を間違えると簡単に息の根を止められてしまいます。ここで、最低限どうやって Topicality に立ち向かえばいいのかを学んで下さい。

Meet Argument を出す

普通 Affirmative が 1AC で出す Case の中には、plan や AD があるだけで「その plan が何で Topical なのか」についての話はしていません。これはどうしてでしょう？答えは簡単で、いちいち出した plan が Topical であることを示さなくても、まあ大体 Topical だってわかるし、Resolution 全部確かめてたらきりが無いからとりあえず Affirmative が出す plan は Topical ってことにしようか、ということになっているからです。(このような「とりあえず Topical であるとみなす」ことを「Topical である Presumption がある」といいます。) Negative が Topicality としてあるフレーズを話題にしてきた時点で初めて plan がそのフレーズの部分に対応しているのかどうかの doubt (疑惑) がかかります。つまり、Topicality を出された時点で初めて Affirmative の plan が Non Topical であるかもしれない疑惑がかかります。(先ほどの商品券配布の例では、Negative が“reduce taxes”の Topicality を出した時点で初めて Affirmative の plan が“reduce taxes”しているかどうかの疑いがかかります。Topicality が出なければ Affirmative の plan は“reduce taxes”したもものとして debate が進んでいきます。)

Topicality を出されてこのような疑惑をかけられた時、Affirmative にとって一番重要なのが Meet Argument を出すことです。 Meet Argument とは「私たちの plan はこうやって疑惑のフレーズを満たしている」ということを示すことです。(「地域振興券を配布すること」は「減税を行う」ことになる、という話をする。) Affirmative は、自分たちの plan は Topicality として出されたフレーズを満たしているってということさえ言えば、plan は Resolution 全てを満たすことになります。疑惑のフレーズは、疑惑ではないんだってことを示すだけで十分 Resolution 全体を肯定していることになるので、Topicality を出されたらまず Meet Argument 出して疑惑を晴らして下さい。細かい反論(相手の Interpretation がおかしい気がする.... Standard をどうしようか...etc)を考えるよりも、どうやったら自分の plan はフレーズを満たしていると言えるかを考えて下さい。

具体的な方法は実はいくつかあるんですが、今回は最もシンプルで必ず使える方法を一つだけ覚えて下さい。その方法とは Resolution をどのようにフレーズ分けて、それぞれのフレーズにどのような Interpretation を行えば、自分の plan が Topical であると言えるのかをあらかじめ考えておくことです。これが完璧にできていればどんな Topicality が来ても怖くありません。だって、Topicality を出されてあるフレーズに疑惑がかけられたら、あらかじめそのフレーズに対応するように準備してきたものを読み返すだけで済むから。これさえできれば Topicality は 80% 返せたようなものです。

Standard を攻撃する

もう一つのことのできれば、ほぼどんな Topicality でも返せるはずです。Standard に一つ議論を出しておいて下さい。というのは、先ほど説明したように Negative は Standard を使って「Affirmative の議論はおかしい、そんな plan は Non Topical だ」って言ってきます。ここをそのまま放置してしまうと、後々どういう風に使われるのかわかりません。そこで、とりあえず一言だけ返して下さい。

“As long as our meet argument is grammatically and contextually correct, it is enough to be reasonable.”

「私たちのミートアークギュメントが文法的、文脈的に間違っていない限り、plan は十分合理的に Resolution を肯定すると言える。」

文法と文脈さえ満たしていれば、十分筋の通った Meet Argument が出せるはずです。このように一言言って、**自分の Meet Argument が文法的、文脈的におかしくないこと**を話しておけば十分です。もし、よくわからない Standard が並んでいたとしても、とりあえず「**文法、文脈に従うのが第一だ**」と言って、しっかりと Meet Argument さえ出しておけば、なかなか Topicality では負けないはずです。

1. **どんな plan に対しても Topicality は出され得る**
2. **だから、必ず事前に全てのフレーズに対応する Meet Argument を作っておく**
3. **Topicality を出されたら doubt のかかったフレーズに対応する Meet Argument を読み返す**
4. **Standard に対して、「文法、文脈に従うのが第一だ」と言って、自分の Meet Argument が文法、文脈に従っていることを説明する**

8. Topicality を伸ばしてみる

Topicality の伸ばし方(自分の議論の説明をしながら、相手の反論に再反論して、その議論を成立させることを「伸ばす」「Extend する」と言います。)については、初めのうちはあまり細かいことを聞いても混乱してしまうだけなので、Topicality を伸ばす際に気をつけるべき重要なことをいくつかあげるにとどめておきます。詳しくは、基本的なことがある程度理解できてから勉強しなおして下さい。

Topicality を最後まで話題にして最終的に Topicality で勝ちたいなら、2NC や 1NR で Topicality を伸ばす必要があります。1NC で出しばなしにしても全く評価されません。Topicality も DA と同じように 1NC で始めに出して、2AC に反論させて、それをさらに再反論しながら 2NC や 1NR で伸ばしていきます。DA と同じような感覚で進めていく議論だと思って下さい。

ただ、Topicality は DA のようにほぼ必ず使えるという訳ではなく、相手の plan が変わると使えなくなることが多いです。さらに、DA なら少しでも立っていればその他の議論と組み合わせると何かに使えることが多いんですが、Topicality は中途半端に立っても何の意味も成さないことが多いです。(もちろん Topicality を他の議論と組み合わせると効果的に使うこともできなくはないです。ただ、DA の場合よりも高度な技術を要します。)単なる時間稼ぎなどではなく、Topicality を試合の中で効果的に使いたいのならそれなりの準備が必要です。

Reasonability Standard と Better Standard

Debate では Affirmative と Negative がそれぞれ Judge を説得します。決して Affirmative と Negative が 2 チームだけで言い合いをしている訳ではありません。Judge が Affirmative と Negative の話を聞いて勝ち負けを決める以上、上手い Debate をするには Judge を意識して話すべきです。Topicality では特に Judge を意識して下さい。Topicality については、AD や DA と違って、Judge が各個人で多様な考えを持っているからです。だから Topicality の議論で Judge を説得するには、Judge が Topicality をどうとらえているのかを知った上で、その Judge の考え方に沿った方法で伸ばしていく必要があります。(Judge が debate 全般やそれぞれの議論に対して持っている考え方のことを philosophy と言います。debate の大会に出ると philosophy 集というものが配られることがあります。その大会で Judge をする人の philosophy、つまり debate に対する考え方がここに載っています。Judge の考えを知る手軽な方法は philosophy を読むことです。もちろん口頭で直接話を聞いてもいいと思いますが。)

細かい部分は置いておいて、始めはとりあえず Judge を大きく二つのパターンに分けてとらえて下さい。Reasonability Standard を持つ Judge と Better Standard を持つ Judge です。この Reasonability Standard や Better Standard は、先ほど説明した Topicality の中で出てくる Standard の議論ともちろん関係がある話で、(だから Standard っていう言葉が付いています)Meta Standard と呼ばれるものです。これらは、**Resolution を解釈する時に一番基本的な基準となるものです**。Resolution を解釈するための基準であるという点は他の Standard と同じです。

Better Standard (Better Definition Standard とも言います)を採用している Judge は、Resolution のあるフレーズの解釈が Affirmative、Negative によって複数出された時、**Better である Interpretation (= Better Definition) を一つだけ採用します**。一方、Reasonability Standard を採用する Judge は Topicality において Resolution の解釈が複数出た時、どの解釈も**「一応筋が通っている」、「十分に合理的であると言える」、「十分に Reasonable であ**

る」と考えれば、複数の Interpretation (= Definition) を採用します。

例えば、減税を行う Resolution において商品券を配布する plan が Topical か Non Topical かを争っている場合を考えます。Affirmative は Topicality に対して、「結果的に商品券によって個人の税負担は軽くなっているんだから、これは減税にあたる」と主張することができます。しかし Negative が Standard の部分で言っているように、「Resolution をそのまま解釈すると、Resolution は直接的に個人が支払うべき料金 (charge) を減らすことを求めている」ように思えます。もしそうだとすると Affirmative の話では少なくとも直接的に税負担を減らしている訳ではないので、“reduce taxes”を満たしているのかあやしくなります。Affirmative の話よりも、例えば「消費税や所得税を軽くする」ような直接的に税金を減らすアクションの方が Resolution により適合しているように考えられます。すると、Judge が Better な Interpretation を一つだけ採用する場合、直接的に税金の額を下げている Affirmative の plan は Topical であるとはみなされません。直接、税金を下げるアクションの方が Better であり、そちらのみを採用するからです。

一方、Reasonability Standard を採用している Judge は、商品券を配布するアクションを減税であるとみなすのが十分に合理的であるか、あるいは非合理的であるかを見ます。どちらの方がより良い解釈であるかはあまり関係がなくなります。

Judge が Better な Interpretation を一つだけ認める場合(つまり、その Round での Best な Interpretation 一つだけを採用する場合)、複数の Interpretation を採用する Reasonability Standard で考える Judge の場合よりもはるかに容易に Topicality を立てることができます。だって、Affirmative の Interpretation よりも Negative の Interpretation の方が優れている(文法、文脈上よりの確である、とか)って言うことが言えれば、それだけで Topicality が成立するから。Reasonability Standard を採用してる Judge に対して Topicality を立てるためには、Affirmative の Interpretation の方が劣っているって言うだけでは不十分で、「Affirmative の Interpretation は全く筋が通っていない」とか「解釈が合理的であるとは言えない」、「解釈は Unreasonable である」っていうことまで証明しないとイケなくなります。何を持って Reasonable である(合理的である)とみなすか、Unreasonable である(合理的でない)とみなすかは、debatable(論争の余地がある)な部分です。色々な Standard を駆使して Affirmative の Meet Argument は Unreasonable であるっていうことを証明する必要があります。

Judge の philosophy は、Topicality を伸ばす際はもちろん、Topicality を受ける際にも有用な情報なので、Affirmative も Negative もチェックしておく必要があります。

Topicality の伸ばし方はケースバイケース

Topicality の基本的なストーリーはあらかじめ 1NC で出しておく必要があります。どのフレーズに疑惑を投げかけるのか、どういう Interpretation にするのか、どういう Standard を出しておくか注意して考えて下さい。伸ばす際にすべきことは、Topicality の基本的な説明をすると同時に、**Affirmative の Meet Argument を排除する(Exclude する)こと**です。この時に、Judge が Better か Reasonability かを踏まえて、どのように Meet Argument を排除するかを決めて下さい。どのフレーズに疑惑をかけるのかによって排除するために使う Standard も変わってくるし、Judge の philosophy によっても伸ばし方が変わってくるはずです。

Topicality の伸ばし方は対象とするフレーズ、Judge の philosophy によってケースバイケースであることを意識して説明して下さい。

簡単に、Topicality を伸ばす際に気をつけるべきことに触れましたが、初心者の方は Topicality の細かい作り方、説明のしかたを学ぶよりも、まずはどうやって返すべきかを学んで下さい。基本的なことを理解してから使う側に回りましょう。基本的なことを理解しないまま伸ばしても的外れなものに終わってしまいます。本当にきっちり Topicality が返せるようになれば、自然と Topicality を作って、伸ばせるようになっているはずです。

- 1 . Reasonability Standard **筋が通っている解釈全てを認める**
Better Standard **そのゲームの中で最も相応しい解釈一つだけを認める**
- 2 . Topicality の基本的な話は 1NC で出しておく
- 3 . Topicality を伸ばす際は、相手の Meet Argument を排除することを目指す。その時に Judge の philosophy に注意する

9. Definition 集を作ろう

今回の NAFA セミナーでも配られると思いますが Definition 集というものがあります。ここで言う“Definition”は、“Dictionary definition”の方の Definition で(Interpretation の方ではありません)、Definition 集の中には Resolution 中の単語の辞書的な定義が載っています。辞書も一つの辞書ではなく、複数の辞書の定義を載せています。これらは本来 Resolution が発表された後に自分たちで作る必要があるものです。作り方は非常に簡単です。大きい図書館(都立中央図書館など)で片っ端から英英辞書を取ってきて Resolution の中に出てくる単語を引いていきます。その定義の載ったページをコピーして、単語ごとに集めて紙に貼りあわせていきます。すると、例えば今期の場合、“carbon”という単語の定義が一覧できるような資料ができあがります。さらに、Resolution の中に熟語や連語があれば、熟語や連語自体の定義も同じようにして集めていきます。熟語自体の定義があればフレーズを考えると非常に役立つからです。これで“carbon”だけではなく、“carbon dioxide”自体の定義も一覧できるようになります。

この Definition 集は Topicality を作る時、そして Topicality を出された時に使う Meet Argument を考える時に無くてはならないエビデンス集となります。また、エビデンスとして使うためにも、その単語がどういう文脈で使われているのかがわかった方が良いので、例文等があればそれらも一緒に貼って下さい。また、辞書に限らなくても、実際にその単語や熟語が使われている文章(もちろん英語で書かれている文章です)を見つけたら、それらも十分に単語の意味や使い方を参照するための資料となり得るので、同時に集めて下さい。一日もあれば十分作れます。是非作っておいて下さい。

1. Resolution が発表されたら Definition 集を作る
2. Resolution 中の単語、熟語、連語の定義を集める
3. 実際の使われ方も集めておく

10. フレーズごとの Meet Argument を考えておこう

あらかじめ Affirmative として、Resolution をどのようにとらえて、どう Meet しているのかを考えておこうと言いました。これは絶対に必要な作業です。これさえあれば変な Topicality に引っかかることがなくなります。plan や AD ができたら同時に Meet Argument も考えておいて下さい。

Resolution をフレーズに分ける

Resolution のフレーズ分けの仕方は一通りだけであるとは限りません。可能な限り全て洗い出しておきましょう。

フレーズごとの意味をはっきりさせ、自分の plan を各フレーズに対応させる

Definition 集を眺めながら、それぞれのフレーズをどう define するか、どういう Interpretation にするかを考えます。文法や文脈に最もよく合う解釈はどれか、自分の plan を上手く対応させるにはどのような解釈がふさわしいかを考えて下さい。

Meet Argument を説明できるようにする

せっかく準備しても実際の debate の試合の中で使えなければ意味がありません。伝える練習が必要です。「フレーズの明確な Interpretation」「自分の plan がその Interpretation にどう対応しているのか」をわかりやすく説明できるようにして下さい。

Grammar や Context に沿ったしっかりとした Meet Argument があれば、あまり Topicality で負けることはありません。Debate を始めたばかりの頃は、Topicality を伸ばすことよりも変な Topicality を出されてもきちんと返すことができるようになることを目指して下さい。単語ごとではなくフレーズごとに注目して考えるくせが身につけば、きちんと返すことはもちろん、Negative として Topicality を伸ばすことも次第にできるようになるはずです。自分の plan が Topical だっていうことが確実に主張できるレベルになれば、逆にどうやれば Topicality を伸ばして勝てるのかが自然とわかってきます。Topicality に関しては 2AC でしっかりと返せるレベルを目指して下さい。

Resolution をフレーズに分ける

フレーズごとの意味をはっきりさせ、plan を各フレーズに対応させる

Meet Argument を説明できるようにする

Topicality はフレーズ単位で考えるくせを身に付ける

11. 参考文献

ネット上で簡単に見ることができる Topicality に関する文献をいくつか紹介しておきます。さらに詳しく学びたい人は参考にして下さい。

KDS のホームページ上にあるテキストです。

<http://www.maeda-lab.net/KDS/text/>

廣江さんの HP です。非常にわかりやすくまとまっています。

<http://www002.upp.so-net.ne.jp/ahiroe/debate/index.html>

debate forum の HP です。「ディベート理論」の部分を探してみてください。

<http://www.debateforum.org/index.htm>

英語のサイトですが、Topicality の例がいくつかアップされています。

<http://www.debatelab.2itb.com/topicality.htm>

google (インターネット上にあるホームページ検索サイトです)

<http://www.google.co.jp/>

google など、HP を検索することができるサイトで “Topicality” と入れて検索すると数多くの Topicality に関するサイトがヒットします。色々探してみてください。

作
長尾健児 (東京大学 ESS の OB です)
Mail : kk26543@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp